

第2次北広島町神楽振興計画

(令和8年度～令和17年度)

-概要版-



～神楽文化が花ひらくまち 北広島～

令和8年(2026年)3月

北 広 島 町

1 計画策定の趣旨

平成 27（2015）年に策定した第 1 次北広島町神楽振興計画から 10 年が経過し、この間に神楽を取り巻く環境は大きく変化しました。少子高齢化が進展するなか、新型コロナウイルス感染症の流行などにより神楽団の組織運営はより厳しさを増しています。2013 年には 72 団体あった神楽団は 2025 年には 64 団体に減少し、神楽大会の観客数も減少傾向にあります。一方で、広島市内での神楽公演にはインバウンド観光客が増加しており、広島県内の外国人宿泊者数はコロナ前から約 1.5 倍に伸びています。

第 2 次北広島町神楽振興計画（以下「本計画」という。）では、こうした状況をふまえ神楽文化の継承と発展、神楽を接点とする交流・賑わいの創出、地域づくりへとつながる振興計画を目指します。



まもる（伝統の継承）× ひろげる（交流と賑わい）× つなげる（地域づくり）
→ 神楽と神楽に関連する活動が活発で華やかに栄える北広島町

図：目指す姿（将来像）の概念図

2 計画の位置づけ・期間

本計画は、北広島町長期総合計画の個別計画として策定するものです。計画期間は、令和 8（2026）年度から令和 17（2035）年度までの 10 年間とし、令和 8～9 年度は、国の地方創生交付金事業と連動した戦略的展開を目指します。令和 10～17 年度は、自立的・持続的な神楽振興の展開を目指します。

3 本町の神楽を取り巻く課題

各調査結果を総合すると本町の神楽を取り巻く課題は、①担い手の確保・育成、②伝統文化の継承、③上演機会と認知度、④観光活用と経済循環、⑤連携・協力体制の 5 つの領域に整理されました。これらの課題は相互に関連しており、一つの課題への対応が他の課題の改善にも波及する構造となっています。例えば、若手人材の確保は上演機会の拡大につながり、上演機会の拡大は認知度向上を通じて新たな担い手の獲得に寄与するという好循環の可能性があります。本計画では、こうした課題の構造的な相互関連を踏まえた総合的な対策を講じていきます。

4 計画目標の設定

目指す姿の実現に向けて、本計画では以下の5つの政策目標を掲げ、施策を展開します。

政策目標Ⅰ 神楽の担い手確保と次世代育成

若手人材マッチングシステムの構築、若年層を対象とした広報戦略、次世代育成プログラムの推進等により、神楽団の持続的な活動基盤を確立します。

政策目標Ⅱ 伝統文化の継承と技芸の向上

映像アーカイブの構築、ドキュメント作成、スキルアップ研修の実施、道具・衣装のシェアリング体制の整備により、神楽の文化的価値を守り高めます。

政策目標Ⅲ 上演機会の拡大と認知度向上

上演機会を増やすため定期公演の充実、デジタル情報発信プラットフォームの構築、ポップカルチャーとの融合、都市部・海外でのプロモーション展開により、神楽の魅力を広く発信します。

政策目標Ⅳ 神楽を核とした観光振興と経済循環

体験型ツアーの開発、グッズの開発と売上向上、拠点となる道の駅の受入機能向上、インバウンド対応の推進により、神楽を通じた地域経済の活性化を図ります。

政策目標Ⅴ 連携体制の強化と地域の誇りの醸成

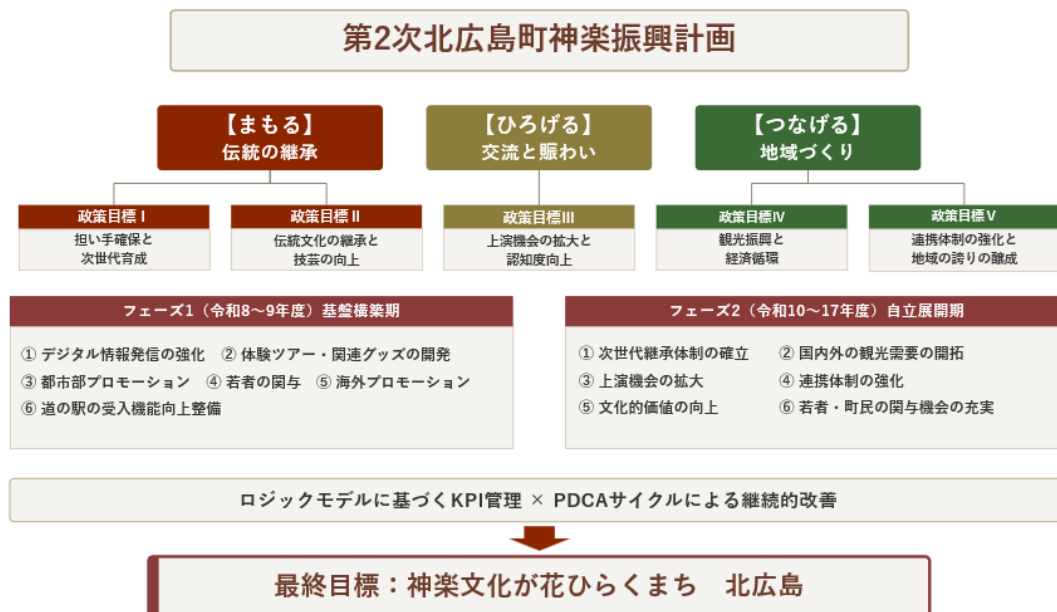
各主体の連携体制の強化、若者の参画促進、町民の神楽への関与機会の創出により、地域に対する愛着や誇り（シビックプライド）を醸成します。

5 目指す姿（将来像）

- 神楽(定期公演・大会・イベント)の上演機会が増えている
- 神楽団の継承体制が確立されている
- 神楽が地域文化資源としてのブランド価値を確立し、町民の誇りとなっている
- 神楽を接点とする交流が拡大し、関係人口の増加と関連産業の発展により観光消費額の向上に寄与している
- 活動休止団体の再活動や新規団員の獲得により、神楽団数が維持・回復している
- 行政・中間支援団体・神楽団・町民が協働する自立的な振興体制が構築されている

6 計画の体系

本計画は、基本理念「神楽文化が花ひらくまち 北広島」のもとに5つの政策目標を掲げ、各政策目標に対して具体的な施策と事業を展開します。



図：計画の体系図

7 計画の成果指標（KPI）と進行管理（PDCA サイクル）

本計画の進捗を客観的に把握するため、成果指標（KPI）を設定します。

また、本計画の推進にあたっては、PDCA サイクルを繰り返すことにより、取り組みを継続的に改善していきます。

成果指標	現状値 (2025年度)	目標値 (2028年度)	目標値 (2031年度)	目標値 (2035年度)
観光消費額	20.43億円	27.18億円	30億円	35億円
高校生・大学生ボランティア参加数	0人	40人(累計)	60人(累計)	80人(累計)
活動神楽団数(子ども・部活含む)	64団体	64団体	64団体	64団体
伝統芸能 HP アクセス数	0PV	10,000PV	30,000PV	80,000PV
町内の神楽大会の来場者数 (芸石および各地域の大会)	2,590人	3,000人	3,250人	3,500人
舞ロード定期公演来場者数	1,200人	1,500人	1,800人	2,000人
過去1年に神楽を鑑賞した住民の割合	88.9%	90%	91%	92%